

平成 30 年度第 1 回 ESD 活動支援企画運営委員会における委員からの助言・コメントと ESD 活動支援センターの対応

I. ESD 推進ネットワークの方向性について

委員からの助言、コメントなど（委員会後に寄せられたコメントを含む）		センターの対応（対応案）
<b>1. ESD 推進ネットワークの方向性一般について</b>		
1	ESD 活動支援センター（全国・地方）に期待するのは、情報・組織・人・学び・活動の 5 つの「つなぐ」を包括的に行うこと。	ESD 活動支援センターは、テーマ、地域、国際的な情報の 3 つの「つなぐ」ことを役割としており、その中でご指摘の視点に沿って進めたい。
2	ESD が広げたい考え、理念を SDGs で文脈に全面に出して、開発教育、国際理解教育関係者も参加しやすい形で、全国フォーラムを含む場を作るとよい。ESD 関係者は ESD という言葉を普及したいのではなく、ESD の考え方を広げたいのだと思う。	ご指摘の通りと考える。ESD という表現に過度にこだわることなく、ESD の考え方を普及していく方針である。
3	ESD が地域の課題の解決に役立ち、学校も参画するといった具体例を使って ESD を広める意識を醸成できると良い。	持続可能な社会をつくっていくうえで、地域課題の解決は重要な課題と認識している。「地域」をキーワードとして、地域 ESD 拠点の好事例の発信や、地域の様々な主体が連携していけるようなプラットフォームづくりを進めていきたい。
4	ESD を推進していくためには、概念だけではなく、NGO 活動等がまったくのボランティアではなく、必要な資金を確保できるような予算化されることが必要。	新居浜市の「ESD コーディネーター派遣制度」、大牟田市での ESD 予算の各学校への配分等、好事例を発信していきたい。
<b>2. 連携を強化すべき分野・セクターなど</b>		
1	35 歳以下のユース（SNS などでも発信しやすい年齢）がより活動・発信しやすくなるための方策などが検討してほしい。	全国センターのフォーラム、地方センターの学びあいフォーラム等を通じて実践報告などの共有を図っている。ユースについては、関係団体との連携を強化し、発信力の強化を支援していきたい。
2	ユース及び国際連携(国内事例の国際発信及びその逆)事業の促進案として高校・大学～大学院の日本最大の留学の仕組み「トビタテ！留学 JAPAN」との連携を提案したい。	国連大学認定の ESD 地域拠点を含め、様々なユースネットワークとの連携の強化を図りつつある。「トビタテ！留学 JAPAN」との具体的な連携方策についての具体的な策については今後の検討課題。

3	「ユース」などターゲットグループ別のものの考え方をそろそろやめ、ソーシャルプロジェクトなどの考え方を取り入れ、パートナーを増やしていくべき。	日本各地の地域 ESD 拠点は、ご指摘のような考え方ですすでに活動しているところが多いと思われ、好事例を発信していきたい。一方、ユースの参画強化は重要な課題であるとの認識を持っている。
4	国際理解教育、開発教育関係者とぜひ一緒にやっていくとよい。ESD 関係者は、概念が包括的でわかりにくいので、達成したいこと、そのためのアプローチなど、わかりやすい形で ESD を伝えてほしい。	ESD という用語が浸透しているところを大切にしつつ、SDGs を達成するための人づくり、学び、活動が ESD という考え方で、連携を進めていきたい。
5	2020 年は、新学習指導要領の実施、東京オリンピック・パラリンピックもあり、国際理解教育・開発教育は大きく動くことに対応すべき。	オリンピック・パラリンピックを契機として様々な団体と連携を進めていきたい。
6	JICA の国際協力推進員の役割のなかに、SDGs 達成のために ESD を位置づけて出前事業をすることなどが考えられる。	JICA の国際協力推進員について学び、連携強化方策を検討していきたい。
7	昨年度、今年度と、外務省の NGO 相談員の仕組みと ESD 活動支援センターはつながりができてきたことを歓迎。制度同士をつなぐことが重要。	外務省の NGO 相談員の仕組みとは、接点ができてきたことを活かして、地域での連携にどう活かすか、地方センターと相談しながら、外務省等との相談、検討を進めたい。
8	消費者団体は、生協をふくめ「教育のための教育」ではなく、必要があって現実社会で役に立つことを行っているため、具体的に何をやればよいのかをしっかりと考える必要がある。	消費者団体との連携の仕方については、分野の専門家の助言を得ながら、特定テーマのワークショップなどで、意見交換の場をつくることから始めたい。
9	農協や労協なども取り込んだ、より包括的なネットワークづくりが必要。	助言を得ながら検討していきたい。
10	環境省、文科省と同じレベルで、たとえば、全国フォーラム等で、外務省も関わる方向で進めることができれば望ましいのではないか。SDGs4.7 の実施省庁としては、環境省、文科省とともに外務省も関係省庁として挙げられている。	外務省には説明にうかがい、全国フォーラム 2017 ではご登壇、全国フォーラム 2018 では、全国フォーラムに外務省関係の資料の提供をいただいた。外務省との連携の強化については、文部科学省・環境省と相談しながら、さらなる方策を検討したい。
<b>3. 地域 ESD 拠点登録について</b>		
1	地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）を増やすためにはどうするか、登録することのメリットが明確でないと登録箇所は増えないと思う。その際、ESD にしても SDGs のための教育にしても、全方位でやれているところはないので、その団体なり組織なりの得意分野を活かして活動拠点として登録できる、というメッセージを出していくことが必要。	活動主体によってアプローチを工夫しつつ、自発性に基づいた拠点登録が進むよう、地方センター、登録済みの地域 ESD 拠点と情報・意見交換を進める。
<b>4. 学校教育と ESD について</b>		

1	高大連携、入試を含めた高大接続という観点が見えていないために、浸透にブレーキがかかっているのではないかと印象を持っている。	ESD 活動支援センターでは、好事例の発信等を通じて、情報提供を行っていききたい。大学の入試改革、高大接続は今後急速に進んでいくので、その動向を見つつ、中高での ESD 推進を図っていききたい。
2	ユネスコスクールへの加盟のハードルが上がったことで、学校単独で ESD を実施していくことが難しくなった。県及び市町村教育委員会へのアプローチを担うことは可能か。	ユネスコスクールが ESD の推進拠点であることには変わりないが、新学習指導要領に ESD がしっかり位置づけられているので、すべての学校が ESD に取り組むという考え方にもとづき、県や教育委員会の好事例や研修情報を発信していくとともに、教育委員会のネットワーク形成を支援していく。
3	様々な学校で行われている教科横断的・クロスカリキュラム的な ESD 実践の評価、ESD を通して学んだ成果が大学や社会でどのように評価されるのが課題。	ESD の評価については、学会等のこの分野での取り組みを発信していけるようにしたい。ESD を通して学んだ成果を社会で活かす方策については、引き続き検討していきたい。
4	ESD を進めることにより、どのような能力がつくのか明確にする必要があると考えている。	学会等の助力も得て先進事例の発信に努めたい。
5	校種別にコーディネーターを養成するような人づくりが重要と認識している。	学会等の助力も得て先進事例の発信に努めたい。
<b>5. ESD 実践における SDGs の位置づけに関することについて</b>		
1	ESD と SDGs の関連性については、概念・モノの捉え方に固執せず柔軟なとらえ方をしながら、ペーパーの作成にエネルギーを割かず、地域で実践する中で、適宜ブラッシュアップすればよい。	国際的な進展を見据えながら、現場で役立つ資料作り、情報発信に努めたい。
2	ESD という言葉がほとんど普及していない。現時点でいうと、SDGs を前面に出して、そのための教育活動、という組み立ての方が普及に弾みがつくのではないか。	ESD という用語が定着している分野を大切にしながら、一方で、SDGs の達成のための人づくりを前面に出して新たな連携を進めていきたい。
3	一部の企業にとって、SDGs が、17 の目標、169 のターゲットのどこかに貢献していればよいという免罪符的なものになることが懸念される。大前提の「持続可能な開発」がなおざりにされて、企業の CSR の一つとなったり、単なる企業の宣伝材料として使われないかとの懸念がある。	企業の SDGs への取り組みは歓迎であり、企業の参加しやすい対話の場や、企業・企業グループに対する情報提供を、ESD 活動支援センター（全国・地方）で工夫して増やしていく。
4	SDGs の考えが出されてから ESD の考えが少し薄まったような印象を受ける。〇〇教育というものがより増えてしまうという不安がある。	SDGs は、経済、社会、環境を一体としてとらえることを強調している。「ESD 実践に際しての SDGs の位置づけについて」の作成等を通

		じて基本的な考え方の整理を進めたい。
5	消費行動は ESD と深く関係している。「ESD 実践に際しての SDGs の位置づけについて (案)」に消費者教育が触れられているのはよいこと。	「ESD 実践に際しての SDGs の位置づけについて (案)」は、内容を吟味し、最終化の上、公開する予定。
6	ESD for SDGs という捉え方の中で、SDGs はゴールであり、ESD は、SDGs に貢献するための人づくりであるということに留意している。大牟田市の小中学校では、文科省の作成資料を基に、自分たちの学校の取組を 17 のゴールのどれに当てはまるか、という作業を行い、ESD と SDGs の関係性を可視化してもらった。	ご指摘の通りと考えている。ご提示いただいたような先進的な事例の発信に努めたい。

## II. ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2018 について

委員からの助言、コメントなど (委員会後に寄せられたコメントを含む)		センターの対応 (対応済み)
1	ESD for SDGs の観点からフォーラムを開催してほしい。SDGs を前面に出して、「SDGs を教育を通じて普及する」観点から関係者の巻き込みを図るとよい。	フォーラムのテーマを「SDGs を地域で達成していくための人づくり：地域 ESD 拠点の可能性」とした。
2	フォーラムに参加した人たちが自分の拠点に戻って題材となるような仕立やネットワークを作る仕立てを考えてほしい。	分科会を中心に、多くの事例紹介、ネットワークに関する議論の機会を盛り込んだ内容とした。
3	今回はオリンピック記念総合青少年センター (オリセン) で社会教育主事等も参加する企画なので、このようなネットワークづくりを担当してもらうのはどうか。	オリセンを運営する独立行政法人国立青少年教育振興機構は全国フォーラムを共催し、フォーラム内容、特に関連分科会の内容を全国 28 の拠点職員の研修教材として活用予定。
4	活動支援センターとしての方向性を周知する機会にもしてほしい。地方支援センターをどのようにまとめているのか、また関係省庁等との仲介役としての働きなどを PR して、広く意見を伺う場面があってもよい。	フォーラムでの議論も踏まえ、総括セッションにおいて ESD 推進ネットワークの課題と今後の方向性を明らかにした。ESD 活動支援センター (全国・地方) はブースを出し、また、すべての地方センターに登壇を依頼し、地方センターの「顔」が見えるようにした。セッション 3 として関係省庁の施策紹介の場を設定した。
5	主催・共催だけでなく、多様な主体の参画を得ていることがわかるように「後援」を得てはどうか。	日本ユネスコ国内委員会の後援を得た。また、32 団体の「協力」をいただき、協力団体を含む全部で 50 件のブース出展を得た。
6	地方センターの意見や経験、地域 ESD 拠点の経験、意見を抽出してプログラムに活かしてほしい。	地方センターの意見を聞きながらプログラム内容を検討、登壇者を決定し、またすべての地方センター月ファシリテーター等として登壇した。地域 ESD 拠点による事例発表を 10 件行った。また、フォーラム

		の一般プログラム終了後、地域 ESD 拠点等の参加を得て「地域 ESD 拠点特別セッション」を開催した。
7	フォーラム開催にあたっては、日本国内に閉じないで、グローバルな視点をもってほしい。	グローバルな視点については、開会挨拶やフォーラム導入のプレゼンテーションで触れていただいた。
8	分科会のテーマは多くの人に関心をもってもらえるよう工夫するとよい。	分科会のテーマは、GAP の 5 つの優先行動分野を意識しながら、地方センターと相談しながら、関係省庁、地方センターや識者と相談しつつ以下の 5 つとした。①学校と地域、②自然災害に備える、③地域と「国際」をつなぐ、④ユース、⑤体験活動を提供する施設
9	全国フォーラムでは、全国の地域センターによる「ユースへの」、もしくは「ユースとの」取り組みの紹介、議論の場を設けてほしい。	ユースの分科会を設け、できるだけ自律的な企画を実施してもらうよう調整した。ユース分科会では、SNS や独自のチラシなどの広報媒体を使って、多くのユースの参加者に参画してもらうことができた。
10	「省庁間連携」の話題を扱うとしたら、内閣府発行の「防災における行政の NPO・ボランティア等との連携・協働ガイドブック～三者連携を目指して～」に関わる動きを紹介していきたい。	自然災害に備える人づくりについて、分科会の一つで扱った。また、企画運営委員会委員に分科会での発表事例の推薦やコメンテーターをお願いした。
11	省庁のセッションでは、外務省はじめ、もっと多くの省庁（経済産業省、国土交通省等）に参加してもらってはどうか。	省庁のセッションは、「持続可能な社会づくりのための消費者行動をめぐる諸課題」に焦点をあてて行った。時間の制限から、昨年が続いて消費者庁、新しく農水省に登壇を依頼し、文部科学省、環境省とともに登壇いただいた。